

中央大学 2025 年度特別入試 【出題の意図】

学部・試験方式	文学部 総合選抜型 スポーツ推薦
科目	小論文

※本件についての質問・照会には、個別に回答することはいたしません。

【出題の意図】

1つ目の設問は、スポーツのような個人や団体の技量や心を高める活動に対する第三者の介入とその対応についてである。現代ではスポーツ、学問、芸術、文芸などに、政治的な介入が行われて、クリエイティブで自由な活動が阻害される事例が絶え間なく起こり、過去にも政治状況だけでなく、人種、ジェンダー、経済などの障壁から、選手や所属する団体が介入を受け、大会への参加が拒否された事例もあった。学際的な研究が進む現在では、スポーツ科学や国際政治学のみならず、歴史、社会、ジェンダー論、思想、心理など多くの学問から研究が進み、自由な競技参加と大会運営についてさまざまな角度から論じられている。高校の授業でも生徒が暗記するだけでなく事実に対する探究や考察を行い、問題提起する方向を取り入れている。この設問では、受験者がオリンピックをはじめとするスポーツの大会で、選手たちがスポーツ以外の理由で不参加など不利益を被った具体的な事例を挙げ、どのような対処が考えられるのかを考察し、自分なりにスポーツのあり方と、それを取り巻く問題について、論理的に論説することを求めるものである。

2つ目の設問は、勝利至上主義についてである。スポーツは、語源が示すように、もともとは免除、それが転じて気晴らしといったという意味があったが、それがやがて競技性や勝敗を含むものへと変貌していった。現代では、スポーツは大会での勝利と不可分と結びついており、そこでは結果が全てであるのか、それとも結果に向けて努力をしたり作法を身に付けたりする過程を重視するのか、という問いが発生する。善く生きることを探求する学問に、倫理学という分野があるが、そこでも結果重視の考え方（功利主義）と、過程重視の考え方（義務論）、人格形成を重視する考え方（徳倫理）の区分けが見られる。この設問は、受験者がスポーツを行っていくにあたって、何を重視しているのか、あるいは何を重視すべきかについての普段の考えを言語化し、他者に対しても説得的に展開していくことを、求めるものである。

## 中央大学 2025 年度特別入試 【出題の意図】

学部・試験方式	総合政策学部・スポーツ推薦入試
科目	小論文

※本件についての質問・照会には、個別に回答することはいたしません。

### 【出題の意図】

小論文は『朝日新聞』2024年2月25日11面に掲載された大学スポーツに関する記事を課題文とし、その問題点と解決策について受験生の理解力・思考力・表現力を評価することを意図した。

#### 1. 理解力

課題文に記載されているような大学スポーツ界の様々な問題点（違法薬物使用、精神的負担、組織のコンプライアンス意識の欠如、学業軽視の傾向、不適切な指導など）を正確に把握し、整理できているかを問うた。解答では問題を列挙するだけでなく、それらの問題の背景や相互関連性を理解しているかも重視される。とりわけ、日本と米国の事例を比較検討し、各専門家の見解を踏まえた上で、大学スポーツ界の構造的な問題を適切に把握できているかを判断基準とする。

#### 2. 思考力

課題文で提示された問題点に対して、自分なりの解決策を論理的に考察できるかを検証する。一時的な対策だけではなく、根本的な原因への効果的な解決策を提案できているか、その解決策の実現可能性や効果について批判的に検討できているかを確認する。具体例を挙げる際には、課題文の内容を引用するだけでなく、自分の知識や経験を基にした独自の事例や提案を展開できているかが重要となる。スポーツと学業の両立、選手の人間的成長、組織の透明性確保などの観点から多角的に思考できているかも判断材料となる。

#### 3. 表現力

自分の考えを論理的かつ説得力のある文章で表現できているかも出題意図の1つである。適切な段落構成、明確な主張とそれを支える根拠の提示、論理の一貫性といった点が肝要となる。また、専門用語や概念を正確に理解し、適切に使用できているか、誤字脱字なく正確な日本語で表現できているかも考查対象となる。特に問2では、自説を展開する際の論理展開の流れ、具体例の適切さ、説得力のある結論の導き方などを重視する。内容に無駄がなく、簡潔で読みやすい文章を構成できているかも採点基準に含まれる。

なお、スポーツ推薦入試という特性上、運動部活動に関わる問題を自分事としてとらえ、真摯に向き合う姿勢も問われる。一般論を述べるにとどまらず、将来のスポーツ界を担う一員としての問題意識や当事者意識を持った回答ができているかも重要となる。